

8 明治高等学校・中学校

		中期目標		中期プラン					
項目	目標	目標の説明	ロードマップ				プラン内容		
			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度			
1	国際教育の推進 ～グローバル化に向けた取り組み	英語能力の維持・向上	高校から明治大学への推薦基準の一つとして、英検2級取得・TOEIC450点以上を基準としている。現在、平均では、500点を超えるスコアとなっており、今後、国際社会での活躍に資するよう、より語学能力を上げる取り組みを行う。 また、海外フィールドワーク型スタディツアーの制度を構築することや、新規に海外語学研修先を開拓したりすることで、生徒が異文化に触れる機会を増やし、語学力に裏付けされた国際的な視野や考え方を習得させる。	英語能力向上施策の継続展開	スタディツアーの計画策定	スタディツアーの実施	新規海外語学研修先の開拓及び調査	新規研修先での語学研修実施	①英語能力向上施策の継続展開 ・英語教材の「多読」の促進 ・TOEIC演習展開・TOEIC・英検受験 ・海外語学研修展開 ・スピーチコンテスト・イングリッシュプレゼンテーション実施 ・海外フィールドワーク型スタディツアーの構築 ②明治大学英語教員とのコラボ授業実施 ③海外協定校候補の調査・視察 ④海外語学研修先候補調査・視察 ⑤長期留学促進・留学生受入れ検討 ⑥ホームステイネットワーク構築
2	直系付属校としての高大連携の充実	大学・卒業生による国家資格試験サポート体制の確立	本校は明治大学直系付属校として、明治大学の中核となる生徒を送り出す使命と自負をもって教育を行っている。大学が求める学力育成にあたることはもちろん、生徒自身の大学での学びの自覚及び志向する学問分野、志望学部のための高大連携講座をはじめとする連携事業を展開し、今後も大学・学部との連絡を密にし、双方により実効のあるものとしていく。	既存の高大連携事業の展開	「簿記講座」、「司法試験予備対策講座」との連携	卒業生組織「総明会」との連携	見直し、及び見直し後の事業展開	①既存の高大連携事業の展開 ・高大連携講座 ・サマーセミナー/スプリングセミナー/ウインターセミナー ・高大連携ブリッジ講座 ・プレカレッジセミナー ②「簿記講座」、「司法試験予備対策講座」との連携 ③卒業生組織「総明会」との連携 ④高大連携事業の見直し・検討	
3	安全安心な学校管理	大規模地震対応マニュアル(高中・調布版)の策定	2011年3月11日の東日本大震災の経験を踏まえ、防災備蓄倉庫の設置をはじめとする大震災に対する各種の対策を講じてきた。本校独自の「危機管理マニュアル(暫定版)」との整合性を図りながら、「大規模地震対応マニュアル(高中・調布版)」を策定する。	危機管理マニュアルの再確認	「大規模地震対応マニュアル(高中・調布版)」の策定・見直し			①「危機管理マニュアル」の再確認 ②「大規模地震対応マニュアル(高中・調布版)」の作成	
4	教育環境の整備	施設設備整備改修計画の立案	2008年4月の猿楽町から調布キャンパスへの移転から、10年を迎え、キャンパス全体の維持管理のために調達部・財務部と連携した協議を行い、法人全体の中期的施設整備計画の一環として調布キャンパスの保守整備計画を策定し、補修・修繕等の整備を必要な案件から順次行っていく。	関係部署・機関との協議検討	調布キャンパス保守整備計画の策定	各保守整備の実施		①関連部署・機関との協議・検討 ②調布キャンパス保守整備計画策定 ③策定した保守整備計画に基づき、関係部署と調整を行い、予算措置の講じ、保守整備を行う。	
5	地域連携事業の展開	調布市との連携による東京オリンピック等へのボランティア参加検討	2020年の東京オリンピック・パラリンピックの競技会場が調布市内にも設置される。調布市との連携により、地域連携事業として、連絡調整を行いながら、生徒のボランティア参加を計画する。	関係部署・機関との協議検討	ボランティア活動への参加	ボランティア活動への参加		①調布市との協議・検討 ②ラグビーワールドカップでのボランティア活動への参加 ③参加活動の振り返り、関係機関との調整 ④東京オリンピック・パラリンピックでのボランティア活動への参加	

学校法人明治大学第2期中期計画

8 明治高等学校・中学校

(1) 国際教育の推進～グローバル化に向けた取り組み【英語能力の維持・向上】

本校では人間形成はもちろんのこと、全ての教科において基礎学力の徹底した育成を行っています。また、グローバル化する社会では、英語能力が必須のスキルとなりつつあります。こうした中で、2015年度から成績評価とは別に、高校生には英検2級以上及びTOEIC450点以上を明治大学推薦基準として新たに課し、中学生には英検準2級1次試験合格以上を明治高校推薦基準として新たに課しています。

この新たな基準における生徒の成績は次のとおりです。

【2015年度】高Ⅲ生推薦希望者 264名 中基準クリア 261名

中3生推薦希望者 169名 中基準クリア 167名

【2016年度】高Ⅲ生推薦希望者 212名 中基準クリア 211名

中3生推薦希望者 157名 中基準クリア 157名

【高Ⅲ生 TOEIC 平均得点（年度推移）】

2012年度：475.9点，2013年度：516.3点，2014年度：518.4点，2015年度：507.5点，2016年度：539.1点

上記のとおり、ほとんどの生徒が基準をクリアして大学または高校へ進学しています。

このように基準改正により英語能力の向上を見ることができたことから、今後はこの能力の維持及びさらなる向上を図るための方策をとり、語学力に裏付けされた国際的な視野や考え方を習得できるよう取り組んでいきます。

(2) 直系付属校としての高大連携の充実【大学・卒業生による国家資格試験サポート体制の確立】

一般の大学入試のための受験勉強を要さず、毎年9割以上の生徒が推薦入試により明治大学へ進学できる付属校の特色を生かし、公認会計士や法曹を志向している生徒のため、従前より大学と連携し長期休暇中に課外講座「簿記講座」や「模擬法廷」等を開講してきました。上述の国家資格試験対応のため国家試験指導センターの「経理研究所」、「法制研究所」及び本校卒業生組織である総明会の「法曹部会」からは試験対策に対する支援について提案があり、現在も経理研究所への入室や現役弁護士による指導を受けています。より実践的な試験対策を高校在学中から行うことにより、生徒のモチベーション向上のみならず大学在籍中の試験合格にも寄与する

ことを目指して、大学各機関と連携したサポート体制を確立していきます。

(3) 安全安心な学校管理【大規模地震対応マニュアル（高中・調布版）の策定】

2016年度に大学4キャンパス毎の「大規模地震対応マニュアル」が策定されましたが、高等学校・中学校においては個別事情を考慮され同マニュアル策定は見送られました。今後は、大学の各キャンパス「大規模地震対応マニュアル」を参考に、本校独自の「危機管理マニュアル（暫定案）」との整合性を取りながら「大規模地震対応マニュアル（高中・調布版）」の策定を行います。

(4) 教育環境の整備【施設設備整備改修計画の立案】

本校が調布市に移転してから9年が経過しました。この間、テニスコート防球ネットの敷設、情報機器の取替更新及び教務成績処理システムの更新など、最低限の施設設備の整備がなされ、日常の学校運営に必要な措置は施されてきました。今後の施設設備管理は、専門家による費用の積算を含め、調布キャンパスにおける建物・施設管理をはじめとする、総合的な補修・取替更新計画を軸に進める必要があります。グラウンドの人工芝及び経年劣化に伴うスクールバスの更新対応といった本校ならではの懸案はもとより、前述のネットワークシステムの整備や情報処理システム、教室等のプレゼンテーション設備の取替更新を含めた、総合的かつ具体的な施設設備管理・更新計画策定を順次行います。

(5) 地域連携事業の展開【調布市との連携による東京オリンピック等へのボランティア参加検討】

2019年のラグビーワールドカップ及び2020年の東京オリンピック・パラリンピックの競技会場が本校所在地である調布市にも設定されます。

「東京2020大会に向けたボランティア戦略」（東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会）においても中高生のボランティア参加が検討されており、またワールドカップと東京2020大会の両大会のボランティア連携継続も検討されています。

海外からの大勢の観客を迎え、ボランティアとして本校生徒が携わることは貴重な体験でもあり、学んだ語学力を発揮する機会として、調布市との連携推進会議等において地域連携事業として連絡調整を行いながら本校生徒のボランティア参加を計画していきます。

以 上